

能城修一¹：日蘭交流400周年に際して企画されている展覧会Shuichi Noshiro¹: Exhibitions to celebrate the 400 years friendship between Japan and the Netherlands

今年は日本とオランダとの交流が始まってから400周年にあたっており、両国政府の後援のもと、各地で色々な行事が企画されている。ここではそのうち植生史研究に関連する二つの展覧会を中心に紹介する。

シーボルトの愛した日本の自然

紫陽花・山椒魚・煙水晶

会場：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

(茨城県岩井市大崎700 電話0297-38-2000 <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>)

会期：2000年3月18日～6月18日

シーボルト (Philipp Franz von Siebold, 1796-1866) がオランダに持ちかえった自然誌資料を中心として、彼の果たした博物学への貢献を紹介する展示企画である。彼のみた江戸時代後期の日本の自然を展示資料から復元し、日本の自然がそれ以降どのように変遷してきたのかを概観する。展覧会の構成は以下のようである。

プロローグ：オタクサを愛した異邦人

シーボルトの人間像と自然誌研究の紹介。

第1部：シーボルトは日本の動物に何をみたか

シーボルトの収集した動物標本と動物画を展示し、日本動物誌の製作にまつわる話題を紹介する。

第2部：シーボルトを魅了した植物たち

シーボルトの収集した植物標本を展示し、日本植物誌の製作過程を紹介する。

第3部：シーボルトが求めた日本の石

シーボルトの収集した岩石・鉱物・化石標本を展示し、まぼろしの日本鉱物誌について考察する。

第4部：シーボルトと医学

シーボルトが医者として、日本に西洋医学を紹介するとともに、和漢薬を収集し処方したことを紹介する。

第5部：シーボルトを取り巻く日本人

シーボルトが門下生などを通して日本の自然史研究にあたえた影響について紹介する。

同館では4月23日にこの展示に関連する講演会が予定されている。

筆者は昨年12月にオランダを訪れた際に、ライデン国立自然史博物館で開催されていた「ミュージアム出島」という展覧会をみる機会をえた。そこではシーボルトの収集した動物標本と川原慶賀が描いた動物画が対比されるかたちで展示されており、両者のすばらしさに感銘を受けた。

この企画展は、こうした自然誌資料の実物を日本で見ることのできる絶好の機会であり、たいへん期待の持てるものである。

大出島展

ライデン・長崎・江戸 異国文化の窓口

会場：長崎市立博物館

(長崎市平野町7-8 電話095-845-8188)

会期：2000年4月19日～6月15日

この企画展は東京都江戸東京博物館と共同で企画されたもので、江戸東京博物館では2000年10月10日～12月3日の会期に別の名称で開催される。1996年には「シーボルト父子のみた日本」と題して、シーボルト父子の収集した民俗資料の展覧会が、林原美術館、江戸東京博物館、国立民族学博物館で開催された。今回の企画展はシーボルトの収集品ではなく、シーボルト来日の直前に、はじめは蔵の責任者として、ついで商館長として出島に滞在したブロムホフ (Jan Cock Blomhoff, 1779-1853) の収集品を中心として企画されたものである。この展覧会の構成は以下のようである。

(1) 出島オランダ商館 日蘭交流の舞台

日蘭交流の開始から、出島とオランダ貿易や、オランダ商館員の生活、オランダ商館員が見た日本人の生活などの紹介と、出島の模型の展示。

(2) 江戸参府と日蘭交流 江戸時代の東西文化交流

江戸参府、蘭学の普及、江戸の阿蘭陀趣味・欄癖の紹介。

(3) 日本(江戸)の自然 ヨーロッパに紹介された日本の動植物

川原慶賀の動植物図譜およびシーボルト収集の動植物標本の紹介。

(4) 日本の生活文化 江戸時代の暮らし

江戸時代の職人と生業、江戸の娯楽・遊興、江戸の装の紹介。

(5) 日本の近代化とオランダ

ブロムホフやフィッセル(J. F. van Overmeer Fisscher), シーボルト等が収集した江戸時代後期の民族資料はオランダのライデン国立民族学博物館に収蔵されている。しかし当館はここ数年をかけて大改修中であって、特別展をのぞいては現地へ赴いてもこれらの民俗資料を見ることはできない。今回の企画展は、1996年の展覧会とはまた別の意味で、江戸時代の生活風習を実現するよい機会である。

なお長崎では、シーボルト記念館において「日蘭交流400周年記念特別企画展」として、本年、以下のような展示が企画されている。

3月18日～4月23日 シーボルト旧蔵日本植物資料展
鳴滝に花開く植物図

5月 国指定重要文化財シーボルト関係資料展 シーボルト記念館のお宝

6～8月 オランダ渡りのガラスと陶磁器展 オランダ船のはこんだ品々

9月12日～10月22日 シーボルトの江戸参府展 シーボルト日本調査旅行
11～12月 日蘭市民文化交流展 オランダに魅せられた人達

(¹〒305-8687 筑波農林研究団地内郵便局私書箱16号 森林総合研究所木材利用部 Forestry and Forest Products Research Institute, Tsukuba-Norin P.O. Box 16, Ibaraki 305-8687, Japan)

書評：水野一晴．1999．高山植物と「お花畑」の科学．145 pp．古今書院，東京．ISBN 4-7722-1686-3．2700円＋消費税．

本書は著者が約15年にわたり調査を行ってきた高山地域の「お花畑」研究の集大成で、高山植物とその生活に関わる水や土、雪、風、地形などの環境条件について一般向けに書かれている。著者はこれまで、自然環境の違いを高山植物の目線で観察し観測を行ってきた。本書でも、気温や地温を測り、風向を調べ、穴を掘っては土壌の物理特性を測定し、植生景観の成り立ちのなぞを解明していく。

著者は「一般の人が読んでもおもしろく、わかりやすい」本をつくりたかったという。使用されている図表は学術論文から転載したものが多く、一見すると著者の意に反して一般の人にはややとっつきにくさを感じさせるかもしれない。しかしそれでもなお全体として親しみやすい印象をこの本が与えてくれるのは、専門的な事柄を身近なたとえ話におきかえて語ったり、説明内容と対応する高山の写真をつんだんに使うなど、さまざまな工夫があるからであろう。写真は著者が撮影した5000枚以上の写真の中から選ばれた148枚が掲載され、そのうち約8割はカラーである。それらの写真によって、著者の見た「お花畑」の美しさや、高山植物のおかれた環境の厳しさが鮮やかに再現されている。

「お花畑」のなぞ解きを読み進んでいくと、何度も山に足を運び、地道な観察を続けてきた著者の姿が浮かび上がってくる。山での調査は困難が多い。重い調査機材を背負って登山しても、悪天のために調査のできないまま下山せざるを得ないこともあったであろう。かつて『地理』41巻4号～42巻3号、古今書院)で連載されていた海外調査に関するエッセイにもあるように、山の技術と経験の豊富な著者でさえ、時には生命の危険と隣り合わせになることもあった。そのように決して楽ではない山での調査だが、抑え切れない好奇心が幾度となく著者を山の調査に向かわせたのであろう。日本の高山での調査が一段落した後、著者は熱帯高山に調査の足を伸ばしていったのだが、経済的に余裕のなかった研究生時代にも研究費の補助を他からほとんど受けることなく自力で海外調査を続けた。その頃の海外での成果の一部も、この本に納められている。若い学生諸氏には、このバイタリティーに学ぶべき点が多いであろう。

(高岡貞夫)

書評：Desmond, A. & Moore, J. 1992. Darwin. xix + 808 pp. Penguin Books, London. ISBN 0-14-013192-2. £12.99. (First published by Michael Joseph, 1991)
渡辺正隆訳．1999．ダーウィン 世界を変えたナチュラリストの生涯 ．1048 pp．工作舎，東京．ISBN 4-87502-316-2. 18,000円．

チャールズ・ダーウィンの詳細な評伝である。昨年9月に翻訳書が刊行された。ダーウィンは、英国国教会と不可分であった英国階級社会のなかにあつて、彼自身中流に位置づけられながら、その社会思想および社会体制の根本にある神による創造を否定する思想を確立してしまう。そのため20年間も進化論を提示することをためらい、極秘の草稿として保持することになった。著者はこの時代の科学

史の専門家として、当時の社会状況を詳細に描きだし、ダーウィンの悩みを生々しく再現している。それにしてもダーウィンが、持病にさいなまれながらも、自然現象を総合的に捉えるべく、あらゆる情報を収集し、徹底して動植物を飼育し観察する精力には圧倒される。翻訳書は装丁も立派であり、ひろく読まれるべきものであるが、あまりに高価であつて惜しまれる。

(能城修一)